

熱田神宮



■冠島（山頂）148.12km - 熱田神宮 - 諏訪湖（中央） 148.12km

熱田神宮

祭神 熱田大神（あつたのおおかみ）

三種の神器の1つ・草薙神剣を神体とする天照大神を指すとしている。

相殿神

天照大神（あまてらすおおかみ）

素盞鳴尊（すさのおのみこと）

日本武尊（やまとたけるのみこと）

宮簀媛命（みやすひめのみこと）

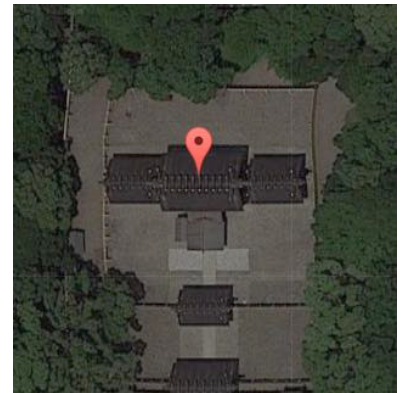
建稲種命（たけいなだねのみこと）

熱田大神とは草薙剣の神霊のこととされるが、明治以降の熱田神宮や明治政府の見解では、熱田大神は草薙剣を御霊代・御神体としてよらせられる天照大神のことであるとしている。しかし、創建の経緯などからすると日本武尊と非常にかかわりの深い神社であり、熱田大神は日本武尊のことであるとする説も根強い。

相殿には、天照大神・素盞鳴尊・日本武尊・宮簀媛命・建稲種命と草薙剣に縁のある神が祀られている。素盞鳴尊は、ヤマタノオロチ退治の際に、ヤマタノオロチの尾の中から草薙剣を発見し、天照大神に献上した。天照大神は、その草薙剣を天孫降臨の際に迺迹芸命（ににぎのみこと）に授けた。日本武尊は、草薙剣を持って蝦夷征伐を行い活躍したあと、妃の宮簀媛命のもとに預けた。宮簀媛命は、熱田の地を卜定して草薙剣を祀った。建稲種命は宮簀媛命の兄で、日本武尊の蝦夷征伐に副将として従軍した。

第12代景行天皇の時代、日本武尊が東国平定の帰路に尾張へ滞在した際に、尾張国造乎止与命（おとよのみこと）の娘・宮簀媛命と結婚し、草薙剣を妃の手元へ留め置いた。日本武尊が伊勢国能褒野で亡くなると、宮簀媛命は熱田に社地を定め、剣を奉斎鎮守したのが始まりと言われる。そのため、三種の神器のうち草薙剣は熱田に置かれているとされ、伊勢神宮に次いで権威ある神社として栄えることとなった。

愛知県名古屋市長熱田区神宮1丁目1-1

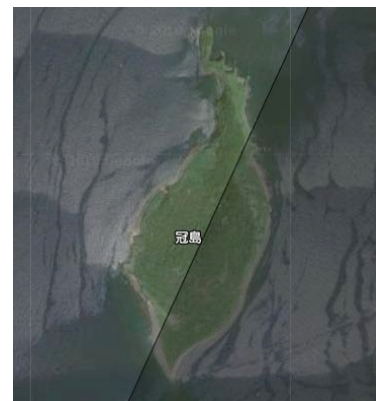


冠島

『丹後風土記残欠』

凡海郷は、往昔、此田造郷万代浜を去ること四拾三里。□□を去ること三拾五里二歩。四面皆海に属す壱之大島也。其凡海と称する所以は、古老伝えて曰く、往昔、天下治しめし大穴持命と少彦名命が此地に致り坐せし時に当たり、海中所在之小島を引き集める時に、潮が凡枯れて以て壱島に成る。故に凡海と云う。ときに大宝元年(701)三月己亥、地震三日やまず、此里一夜にして蒼海と為る。漸くわずかに郷中の高山二峯と立神岩、海上に出たり、今号つけて常世嶋と云う。亦俗に男嶋女嶋と称す。嶋毎に祠有り。祭る所は、天火明神と日子郎女神也。是れは海部直並びに凡海連等が祖神と斎所以也。(以下八行虫食)

http://www.geocities.jp/k_saito_site/album28.html



大本教

杵島・冠島は、舞鶴市の北方に浮かぶ一対の孤島であり、国祖の大神（国常立尊）ご隠退の島である。三千年の昔、この世の造り主である国祖の大神は、邪神によって綾の聖地から艮（東北）にある杵島にご隠退された。艮の金神といわれ、祟り神、悪神として忌み嫌われたが、永いあいだ杵島に住居され、世が潰れないように蔭から守護されてきた。(大本教) 常世島（とこよじま）、竜宮島とも呼ぶ

<http://www.omt.gr.jp/modules/news/index.php?page=article&storyid=67>

祭神/国常立尊 祖土の神 龍神

老人嶋神社

若狭湾の冠島にある神社。丹後風土記残欠には凡海坐息津島おおしあまにますおきつしま社。「室尾山観音寺神名帳」に正二位息津嶋明神とある。老人島明神、あるいは恩津島社ともよばれる。若狭湾沿岸の漁民の崇敬厚く、とくに野原・小橋・三浜三村の氏神として祀られてきた。祭神は天火明あまのほあかり命・日子郎女ひこいらつめ命と伝える。幟は「老人嶋大明神」と「恵比須神社」と書かれている。雄島参りとして伝わるペーロン（白龍）競艇は周辺漁民の古い来歴を示すものと思われるが、これは南方系漁民の民俗であろうし、祭神：日子郎女神は天照大神のプロトタイプであろう。日子郎女神と火明命があわせ祀られる場合は母子神あるいは夫婦神の関係と思われる。老人嶋神社は、本来は海照神とエビスさんを祀る神社でなかろうか。

http://www.geocities.jp/k_saito_site/doc/tango/oitsimaj.html

船玉神社

日本海沿岸の漁師の崇敬あつく、昔から大漁祈願のため近在漁村から「雄島参り」の行事が行われる。

京都府舞鶴市野原

諏訪湖

諏訪明神は、神代より「龍の化身」であるとして拾数体の龍頭がつくられた。諏訪大明神画詞の中に「元寇の役即ち文永十一年(1274年)弘安四年(1281年)再度にわたる蒙古軍の襲来に際し、上社の神苑に巨竜立ち昇り西方に向かって飛翔し博多湾上に蒙古の軍船を撃滅し給う」という記述がある。

1986年(昭和61年)、国土地理院のソナーによる湖底地形調査では、湖底に一辺が25mとされる菱形の“物体”が発見された。これが信玄の水中墓ではないかとされ、信州大学、読売新聞、日本テレビなど複数の



しくみ～神社の仕事編～「熱田神宮」2018

団体が 10 数年にわたって調査を行った。電磁波探知機により墓標のような立体が確認されたとも報道されたが、最終的には謎の菱形は湖底の窪地の影であるとの結論が出された。しかし、問題の菱形が自然にできたとは思えない程はっきりとした形をしており、湖底は泥が深く目視による実地調査が困難であることから、水中墓説を支持する声は現在でも多い。菱形の頂点が東西南北を指していることから自然の造形物とは考えにくいとされている。



備考

昨年、古い大和系神社が縄文・出雲聖地を支配する「しくみ」づくりをしていることが分かった（詳しくはカテゴリー/古い神社の役割/を）が、すっかり熱田神宮を調べるのを忘れていた。さっそく探してみたら、諏訪湖と冠島が同距離のピラミダルな三角になることがわかった。問題は、諏訪湖の真ん中あたりにはぶつかるが、ピンポイントはどこかということ。コンパスを冠島の老人嶋神社に合わせるか船玉神社に合わせるか迷ったが、以前に大甕神社（茨城）が月山と諏訪湖の封印をしているしくみを調べた時は、春宮大門も同じ線上に乗ってきたので信ぴょう性を感じられた。（左写真）今回も同じ場所に当たるようにコンパスを回すと冠島の真ん中の山頂がピンポイントになるのでそこに決めた。面白いことに、諏訪湖のラインの始まりが、春宮の浮島社がある砥川の河口で、終わりが上川の河口になっている。（下記地図参照）河口も縄文出雲系聖地であるから、きっとこのラインで正解だと思われる。

諏訪湖は、大甕神社と熱田神宮と二重に封印されていることがわかった。

冠島も縄文・出雲系の聖地といえる。ということは国常立尊も縄文出雲系の神なのか？たしかに国常立尊は龍神とされている。相対する神である天之御中主神は龍ではなく鳥系なのだろうか？

冠島と諏訪湖の龍は、草薙の剣により封印されていた。



大甕神社の円周ライン



熱田神宮の円周ライン

